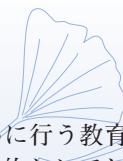


NEWS LETTER 2009



会長挨拶

横浜市立大学後援会長 宇南山 英夫



横浜市立大学後援会は、横浜市立大学がその理念実現のために行う教育研究事業および学生生活事業に対して側面から財政的支援を行うことを目的としております。この目的を達成するためには、まず第1にその財源の確保が必要であるとともに、第2にその財源の使途すなわち大学が行う教育研究事業および学生生活充実のための支援事業が円滑かつ有効に実施されるよう促進することが必要であると考えられます。第1の財源の確保については、後援会組織の改組すなわち法人化に際し、保護者の他に卒業生および教職員と退職者等を新たに会員としてご協力・ご支援をお願いすることができ徐々に充実されつつあります。第2の点については、予算の執行が円滑かつ有効に行われているとは必ずしもいえない状況もあり、したがって今後より効果的・適正な予算の立案と執行が行われるよう改善をはかり、また大学当局ともより緊密な連絡をとりながら推進して参りたいと考えております。

ところで、大学にとって最も重要なことは、いうまでもなく教育の質の維持ないし向上でありますが、その前提として今日わが国が直面している未曾有の構造変化すなわちリーマンショック以後の世界経済の構造変化とわが国における世界に類をみない高齢化と18歳以下人口の減少という経済・社会の大きな構造変化が考慮されなければならないと思います。大学教育においても、この変化の時代に必要とされる人材、すなわち広い教養と実践的能力を有し自己の判断で行動しうる人材を養成することが望まれております。このような人材を養成するためには少人数教育や課外活動の活用も必要であると考えられますが、それには費用もかかります。後援会の財政的支援が多少ともこのような意味で役立つとするならば幸であると考えております。

会員の皆様には、後援会の運営について日頃より多大のご支援とご協力を賜わっており深く感謝申し上げております。今後とも後援会の充実発展のため、より建設的かつ有効なご意見・ご助言を賜りますとともににより一層のご協力とご後援のほど心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

公立大学法人 横浜市立大学理事長 本多 常高



横浜市立大学は、法人化5年目となり、法人化に伴い策定した現中期計画を達成するための仕上げと、次期中期計画の骨子を固める大事な時期を迎えるました。

ここ1年間の主な取組を紹介しますと、まず、より実践的な教育研究などを目的として、大学院の国際総合科学研究科を「都市社会文化研究科」「生命ナノシステム科学研究科」「国際マネジメント研究科」へ再編成しました。次に、県内唯一の医学部をもつ公立大学の責務として医師不足問題へ対応するために、医学部定員を2年連続の取組により90名へと増員しました。さらに、国の大型研究費である「科学技術振興調整費」への提案が採択され、最先端の治療法や新しい薬を作る創薬などへの研究に取り組んでいるところです。これら教育研究・医療など様々な分野での取組が着実な成果につながるよう、今後とも鋭意努力してまいります。

大学全入時代を迎えた中で横浜市立大学が果たすべき使命は、国際都市横浜の次代を背負う人材を育成することです。そのためには意欲と能力のある学生を募り、行き届いた教育環境の中でその素質を開花させることができます。良き教育者を慕って、良き学生が集まり、良き指導を受け、また良き仲間どうして切磋琢磨し、いろいろな分野で日本の社会をリードしていく気概と知恵を身につけた社会人として巣立っていく。そして志の高い学生が集まるところに、情熱に燃える教育者が多数集まる。この良き循環をより強固なものとし、大学の価値を高めるために、どういった戦略をたてていくのか次期中期計画策定の中で大いに議論していきたいと考えております。

また、皆様からいただいた後援会費の経費執行等については、先日の総会で御意見もいただいたことを受け、後援会との連携で学生生活にプラスとなりうるような事業に活用し、最大限学生に還元できるよう努めてまいります。

横浜市立大学が横浜市民にとって意義ある大学として成長、発展していくために、後援会の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

横浜市立大学長 布施 勉



後援会の宇南山会長を始め会員の皆様には、本学に対して様々な手厚いご支援をいただきしております、心から御礼申し上げます。

横浜市は、今年「開港150周年」の記念の年を迎えておりますが、1854年の「日米和親条約による「開国」と1858年の「日米修好通商条約」による「開港」は、我が国近代化の原点であると同時に、横浜市及び横浜市立大学の歴史的原点でもあります。本学は、横浜市を設置母体とする「公立大学」であり、「横浜市の社会インフラ」であることから、横浜市とともに過去から未来への歴史を共に歩み、市民の誇りとなり、人類社会に貢献する存在にならなければなりません。

現在、世界レベルで大掛かりな経済社会の構造的变化が起こっていますが、教育に責任を有する学長として一言申し上げれば、この「乱世」とも言えるこの社会変動の渦中にあっても堂々と生き抜く力を、学生諸君にはまずは養ってもらいたいと思っています。そのために用意されているのが、本学独自の「教養教育システム」であると言えます。この目的を達するため、私は、学生には日ごろから「勉強、研究、自己の確立」を強く求めています。

今後とも、引き続き本学に対するご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

国際総合科学部 卒業生を輩出して

横浜市立大学国際総合科学部長 藤野 次雄



国際総合科学部は、本年で開設5年目を迎え、今年3月には初めての卒業生を出しました。国際総合科学部は、「幅広い教養」と「高い専門能力」の習得を教育理念・目的とした国際教養大学を目指し、国際的視野に立った国際基準の教育を行い、自ら課題発見・課題解決ができる能力を育成しています。

今年度の卒業生を対象にアンケートを実施した結果によると、本学の教育成果が各卒業生に体得されていることが伺わせられますが、未だ不十分なところもあり、改善改革報告書を作成し、一層の向上を目指していますが、4年間の成果を、コースごとの卒論要約集、さらに後援会の補助によるゼミ単位の卒論集を上奏することが出来ました。また、厳しい経済情勢にもかかわらず就職・進学もほぼ順調に進行しました。

学生の入学から卒業までの間、さまざまな点で後援会の諸事業でのご協力があっての賜物と感謝しております。2011年からは、新しい6年間の「中期計画」を作成し、さらにパワーアップしていくつもりですので、一層のご協力をお願いいたします。

後援会の助成事業紹介

1. 学生活動助成事業

浜大祭や医学部祭実行経費補助、関東甲信越体育大会・首都大学定期戦等の大会参加補助、課外活動団体へ活動補助金をはじめピッティングマシーンや楽器などの通常経費で賄いきれない備品購入補助、ゼミ合宿等ゼミ活動に対する補助や院生等の研究発表のための学会参加旅費を補助するなど、豊かな学生生活のための助成事業を実施しています。

「浜大祭」

こんにちは、浜大祭実行委員会委員長の高木契佑です。浜大祭とは、今年で59回目を迎えた歴史ある大学祭です。

私たち浜大祭実行委員会は、約60人の実行委員が来場者の方々に心から楽しんでもらえるよう工夫を凝らした大学祭を創りあげるために日々努力しています。実行委員も普段は学生らしく仲良く楽しんではいますが、常に多くの来



場者の方々に楽しんでもらえる大学祭を創っているという自覚と責任を持って活動しています。

今年度のテーマは、「奏宴」です。これは学祭という一つの「宴」を市大生全員で「奏でる=創りあげる」というイメージの造語です。また、昨年度復活したミスYCUコンテスト、横浜開港150周年企画を今年度も継続して行い、テーマとの相乗効果で華やかさを存分に表現しました。

最後になりますが、浜大祭を今年度も開催できるのは、本学関係者の皆様、後援会や進交会・同窓会の皆様、また、協賛・後援してくださった企業に皆様、そして地域の皆様のご協力の賜物です。実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。

2. 学習助成事業

毎年学術情報センターへの図書寄贈をはじめキャリア支援室など2か所への新聞、英文雑誌の定期購入など、学習に係る助成事業を実施しています。昨年度より、ゼミ単位での卒論集作成のための製本費の助成も実施しています。

「図書寄贈」

2008年度には各コースの学習テーマに沿った約300冊の資料を寄贈しました。『文系のための環境科学入門』や『若者のための政治マニュアル』など、共通教養科目で広く活用される多分野にわたる資料のほか、「ヨコハマ起業戦略コース」の学生には『観光マーケティング入門』、「人間科学コース」の学生には『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』といった、学生の研究テーマに深く関係するこれらの寄贈資料は頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。



学術情報センター

「学術情報センター（図書館）」は、横浜市立大学の教育・研究並びに学習の支援にかかる情報サービス機能を総合的に備えた施設です。資料の収集だけでなく、学習・

研究に役立つ様々なサービスの提供も行っています。

館内には約400席の閲覧席、複数名で利用可能なセミナー室、情報検索室等があり、様々な学習スタイルに応じた場を提供しています。平日は22時まで、土日も9時～19時まで開館しており、授業後や休日も十分な学習時間が取れるよう配慮しています。2008年度の入館者数は延べ15万人でした。

また、学生が情報検索やレポート作成に利用できるPCを備え、学生の学びを多方面からサポートしています。

蔵書は人文、社会、自然科学系図書を中心に62万冊あり、2008年度には約5万冊の資料が貸し出しされ、多くの学生に利用されています。

学術情報センターでは、これらの資料をより有効に利用していただけるよう、図書館の使い方や資料の探し方などのガイドanceを行なうほか、一人ひとりの学習・研究に沿ってアドバイスを行うレファレンスサービス等を提供しています。

3. キャリア支援事業

キャリア支援室開催の「合同企業セミナー」、「キャリアサポートーと学生の集い」など就職サポート事業の共催や補助、資格取得受験料補助などキャリアサポート事業を実施しています。



「合同企業セミナー」

昨年度は11月11日から11月14日の4日間で172社、1,498名の学生を動員して開催されました。会場となった体育館では、企業の採用担当者の話を熱心に聴く学生や内定者として後輩の相談に乗る4年生の姿が印象的でした。今年も11月10日～13日の4日間で開催します。企業ブースでは熱心に説明を聴く学生の姿がみうけられました。

「キャリアサポートーと学生との集い」

OB・OGによる就職サポートの一環としてキャリアサポートー制度を運営しております。現在、350名を超えるOB・OGが登録しており、年に一度、大学の教室を利用して集いを開催しています。昨年は10月25日に開催し、学生、キャリアサポートー合わせて189名が参加しました。今年は10月24日（土）に開催します。

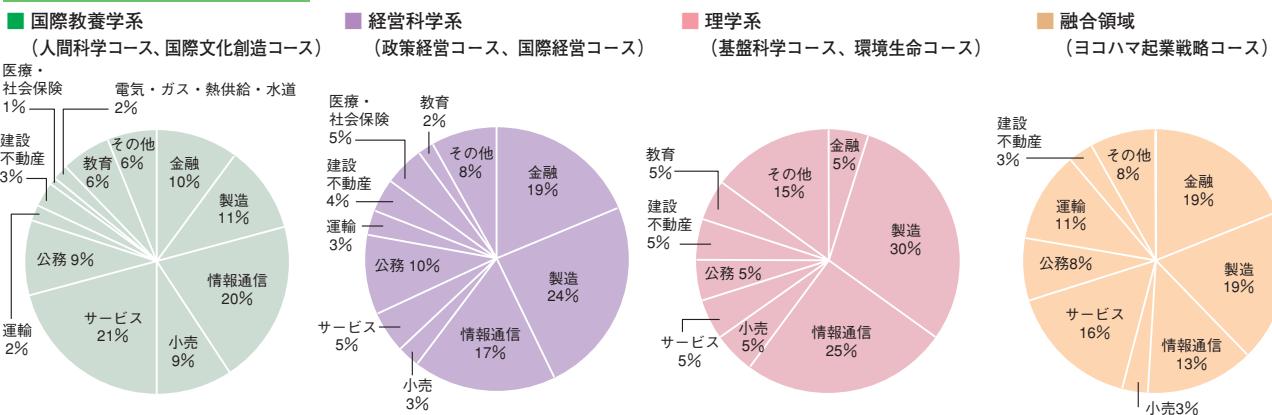
「公務員講座、各種資格取得希望者へのサポート」

キャリア支援室主催の公務員講座を受講の上8割以上出席した受講生には、修了後1万円の補助金を後援会が助成します。このほかLEC横浜校にて開講されている科目についてキャリア支援室を通して申し込むことで、授業料の割引が受けられるなど支援も行っています。これまで後援会が窓口となっていた資格助成も申請場所をキャリア支援室に移すことで、学生への周知の機会を増やすことにより申請者が増加しています。

また、資格取得状況をデータベース化することで、進路と資格取得の関係も今後のキャリア支援の参考資料として役立てていきたいと考えています。

学部卒業生の主な進路

(2009年3月現在)



●主な進路先

(株)ANAエアサービス東京、NTTデータソルutions(株)、日本電気(株)、第一生命保険相互会社、(株)ヤンマー、(株)マクニカ、(株)JALイノベーションズ(株)、セイコーエプソン(株)、イオンリテール(株)、みずほフィナンシャルグループ(株)、エム・ティ・ティ・コムウェア(株)、コスモ石油(株)、(株)JTB情報システムズ、スキン(株)、ソニー(株)、ニッセイ同和損害保険(株)、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)三井東京UFJ銀行、(株)高島屋(株)、(株)三愛東京UFJ銀行、(株)フジテック(株)、(株)ベネッセコーポレーション(株)、(株)リコーアー(株)、(株)高島屋(株)、(株)三愛東京UFJ銀行、(株)日立製作所(株)、(株)福島中央テレビ、(株)良品計画、(株)住友商事(株)、森ビル(株)、大日本印刷(株)、(株)東日本高速道路(株)、凸版印刷(株)、(株)日本自動車(株)、(株)清オイオガループ(株)、(株)日本技研工業(株)、野村證券(株)、東京高等裁判所、東京国税局、国税専門局、国税局、国土交通省関東運輸局、横浜市役所、(株)横浜銀行、横浜市教員、神奈川県庁、神奈川県警察

●主な進学先

横浜市立大学都市社会文化研究科、一橋大学商学院研究科、慶應義塾大学法学部研究科経営学専攻、東京芸術大学映像研究科映画専攻、筑波大学文学研究科

●主な就職先

NECソフト(株)、(株)エニーアー、タカイ医科工業(株)、三重ベース・ソリューションズ(株)、スズキ(株)、(株)OSKホールディングス(株)、(株)オブレ(株)クリー(株)、コスモスフィア(株)、(株)ムード(株)、ワーカーズアソシエーションズ(株)、(株)横浜銀行、(株)山形銀行、(株)宣伝会議、(株)日本航空インターナショナル(株)、日立メディコ(株)、(株)乃村藝能(株)、(株)北陸銀行、京成電鉄(株)、三井住友カード(株)、日立空港事務(株)、(株)日立ロジスティクス(株)、(株)凸版印刷(株)、(株)日本自動車(株)、(株)清オイオガループ(株)、(株)日本技研工業(株)、野村證券(株)、東京高等裁判所、東京国税局、国税専門局、国税局、国土交通省関東運輸局、横浜市役所、(株)横浜銀行、横浜市教員、神奈川県庁、神奈川県警察

●主な進路先

横浜市立大学国際アシスト研究科、一橋大学院経済研究科、大蔵大学経済学研究科経済学専攻、神戸大学経済学研究科、東北大大学院、香川大学大院法学院研究科

●主な就職先

三菱UFJ信託銀行(株)、NECネットエスアイ(株)、シーアー(株)、スズキ(株)、(株)OSKホールディングス(株)、(株)オブレ(株)クリー(株)、コスモスフィア(株)、(株)ムード(株)、ワーカーズアソシエーションズ(株)、(株)横浜銀行、(株)山形銀行、(株)宣伝会議、(株)日本航空インターナショナル(株)、日立メディコ(株)、(株)乃村藝能(株)、(株)北陸銀行、京成電鉄(株)、三井住友カード(株)、日立空港事務(株)、(株)日立ロジスティクス(株)、(株)凸版印刷(株)、(株)日本自動車(株)、(株)清オイオガループ(株)、(株)日本技研工業(株)、野村證券(株)、東京高等裁判所、東京国税局、国税専門局、国税局、国土交通省関東運輸局、横浜市役所、(株)横浜銀行、横浜市教員、神奈川県庁、神奈川県警察

●主な進学先

横浜市立大学都市社会文化研究科、東京大学農業生命科学部教育研究科、横浜市立大学人間生物学研究科、横浜市立大学農業生命科学部地盤科学教育研究科、横浜市立大学人文学部、横浜市立大学農業生命科学部教育研究科、横浜市立大学人文学部、横浜市立大学農業生命科学部地盤科学教育研究科

4. 海外研修支援事業

ウィーン大学交換留学をはじめカリフォルニア大学サマーセミナー、オックスフォード大学ブルックス校への短期語学研修といった「海外留学・語学研修」や「海外インターンシップ」・「海外ボランティア」への参加学生に対し渡航費の一部補助を実施しています。昨年からは海外フィールドワーク授業参加の学生にも渡航費の一部補助も始めました。

「海外留学・語学研修」

国際総合科学部 4年 藤本 達司

「学生最後の夏」をあなたはどのように過ごしましたか？私は人生で最も自由な時間（？）をカルフォルニア大学サンディエゴ校で過ごすことに決めました。この恵まれた選択ができたのは、横浜市立大学後援会を始め、本当に多くの方々の支援によるものです。心から感謝しています。

実は私は同校へは2年前の春季語学プログラムで一度訪れています。今夏、アメリカの一般学生に交じって講義を受ける夏季プログラムへの応募を決意したのは、修士課程に進む準備をアメリカで進みたいという思いに加え、夏のカルフォルニアを満喫したかったからでした。噂に聞くエネルギーな授業スタイルはその通りであり、先生のジョークはとても聞き取りにくいもので私を大いに苦しめ、寮に住むアジア系には妙な連帯感があり、日差しの強さは強烈に夏を感じさせてくれました。刺激と発見に満ちた5週間の滞在では、目的通りの成果をあげることができました。また彼の地では、自分が見習いたいと思うたくさんの人物に出会うことができました。再会を喜び、安息日のパーティに欠かさず招待してくれたホストファザー。医師を志していると胸を張ったルームメイト。アメリカで会計士をしている横浜市大出身の女性。経済オタクのチュニジア人タクシードライバーなど、それぞれが素敵なパーソナリティーの持ち主で、出会いの中に学ぶべきことがたくさん隠されていました。そうしたことが今回の滞在の収穫だと考えています。

学生最後の夏にアメリカへ行けて本当に良かった、そう胸を張るために、滞在を楽しんだだけではなく、帰国後どれだけ自分自身を変えてゆけるかに懸かっていると思います。経験から得られた知識や出会いの中で感じたことを忘れずに、残りの学生生活とこれから始まる社会人生活を頑張っていこうと考えています。

今後も後援会からの支援を上手に活用して、たくさんの市大生が世界へ出て行くことを祈っています。

「海外インターンシップ」

国際総合科学部 2年 古田 幸来

私は2009年8月に、オーストラリアのシドニーにある広告代理店でインターンシップを行いました。

実習先の広告代理店はシドニーを中心に現地在住の日本人向けのフリーペーパーを発行されていて、少人数でとてもアットホームな感じの職場でした。日本や海外のニュースの原案収集、取材のアポ取り、カフェやレストラン等の取材、記事制作など、広告づくりや雑誌づくりのノウハウを細かく教わりました。このインターンシップを通して広告の仕事の内面を知ることができ、私の広告に関する仕事をしたいという気持ちはよりいっそう高まりました。また、英語力においても自分の英語力の未熟さを痛感でき、さらなる英語力向上の意欲も湧いてきました。

実習後はホームステイ先でホストファミリーと様々な話をし、異なる国の価値観を共有できました。週末には、動物園に行ってカンガルーやコアラを見たり、大好きなラグビーの本場でのプレーを生で観られたりという貴重な体験ができました。至る所で様々な人が話しかけてくれたので、文化の違いや人々の違いを感じることができました。

このような海外インターンシップという素晴らしい体験に対し、支援してくださった後援会に感謝いたします。



「海外ボランティア」

国際総合科学部 1年 本島 ゆか

私は2009年8月に横浜市立大学後援会の援助を頼って国際ボランティアに参加しました。国際ボランティアは世界中の人々が繋がり、集まり、気持ちを1つにして生まれる素晴らしい共同作業です。世界各国にプログラムがある中で、私が訪れたのはスロバキア共和国です。

プログラムの内容は『13世紀のお城の修理・修復』というもの。お城と言っても、全て石造りのとても質素でシンプルなものです。どこを見ても空に山、やぎという環境の中で、コンクリートを練ったり、土砂を運搬したり、畑仕事をしたりと汗を流してきました。夜は、満天の星空を見ながら草原を歩いて歯磨きに湧き水まで行きました。現地の方々とも自国の料理(肉じゃがは大好評)や文化を紹介するパーティーで交流し、国境を越えて知り合うことの喜びを感じました。約2週間を12人の仲間達と過ごしたことで、生活を共にするということには、国や言葉、文化や見た目などの全ての違いを取り扱ってくれる力があることを痛感しました。

それでも時には、言語の壁に悩まされることがありました。分かってもらえない、理解できない…この初めて経験した悔しさともどかしさは、この先も忘れることなく英語に対する向上心の源になることだと思います。辛いこと、楽しいことを一度に経験し、今思い出すと夢のような時間でした。このような貴重な経験の機会を与えて下さった横浜市立大学後援会の方々には心から感謝しています。



「海外フィールドワーク」

国際総合科学部 3年 伊東 尚記

昨年に引き続き行われた、中国での藤野次雄研究会海外フィールドワーク。僕は昨年と今年と2年連続で参加しました。前回は単純に「日本との違いを体験しよう」という想いを胸に、近くにありながら深くは知らなかった中国で刺激を受けてくることができました。また、この体験は私がその後のゼミ活動や就職活動などに取り組む際に広く物事を考えることができるきっかけになりました。

私たちは日頃ゼミ活動の中でデータやニュース・文献を調べたり、分析手法を勉強したり、どちらかというと間接的な手法を通じて広く世界・国家・地域が直面している経済的な時事問題を解決する政策を考えることをしています。こうした間接的な情報で問題の事柄を一步引いた目線から広く公平に知ることはできるのですが、その一方で生の情報から得られるような臨場感が希薄なこともある「机上の空論」となる研究となってしまう恐れもあります。そこで経済・文化・民族問題などの変化に関して興味深いトピックが多い中国で、かつその中でも毎年驚異的な発展を続ける沿岸部を訪問できることは、現代日本という発展が一段落してある意味では「ぬるま湯」に使っていた私たちにとっては良い刺激になりました。昨年の研修でおぼろげながら実像のイメージをつかめた中国沿岸部の発展。そこで感じた成長のスピード感とエネルギーな人々。4泊5日は訪問させて頂いた企業ではもちろん、バスから見える風景や上海駅前で戯れる人々等、様々な場面で味わう体験は新鮮でした。それは今年も変わらず熱意に溢れており、昨年建設中だった高層ビルがあつという間に完成してさらにその数を増し、せわしなく動く人と自転車と車の数も増え、昨年の世界同時株安を乗り切ってさらに熱意を持って向上しようとする中国経済の底力に触ることができました。また中国でも国内外の情勢が変わっていく状況を肌で感じたことで、現代社会に生きるうえではどこでも変化に対応していく力が必要なのだと実感させられました。このように国内のみならず国際的知識と目線を持って経済政策を考えるきっかけになる上に、この機会を積極的に活用して自ら成長していくことができる上で有意義なものであった、と私は断言できます。上海行きの飛行機内から始まった4泊5日の中で数々の新鮮な発見や、現地で働かれている方々のお話を伺ううちに、文化や価値観の違う部分やTVで見聞きしていた現代中国を肌で感じることができました。メディアやデータだけではわからない実際の状況を自らの目で確認し、現地で奮闘しておられる日本企業の方の話を聞き、直接自らの疑問をぶつけることができるという体験はゼミ活動として経済政策演習を行う上でも、また国際総合科学部の学生として広く教養を身につけて社会に貢献できるようになるという目的達成のためにも、非常に有意義なものだと心から思いました。私もその目的意識に違わず、高付加価値な人材となるべく一生勉強していきたいと強く感じました。

最後に、今回の研修にあたって多数の方々のご協力とご支援に感謝の意を表明させて頂きたく存じます。研修のコーディネートの段階から関係各所はじめ皆様のご協力のおかげで、私たちは人生において忘れられない貴重な体験をさせて頂くことができました。この場を借りてゼミ生一同、厚く御礼申し上げます。

5. 研究活動振興支援事業

研究活動振興支援事業として、「特別講義開催補助」や横浜市立大学で開催される学会に対し「学会開催補助」を実施しています。

平成21年度は既に「国際環境法」の特別講義開催補助を実施いたしました。

また、カメリアホールで開催の「日本ブロンテ協会」大会・「第13回神奈川体育学会」大会開催に対しての補助も実施いたしました。

6. 福利厚生事業

福利厚生事業としては、入学式終了後の保護者説明会に対し、入学のお祝いを兼ね後援会より簡単なお弁当をご用意します。卒業時には学位記授与後開催の卒業祝賀会に対し補助を実施しています。その他、学長賞・学長奨励賞受賞の学生さんに対し副賞をお渡ししています。

「横浜市立大学学長賞・学長奨励賞副賞」

横浜市立大学学長賞・学長奨励賞は市大の課外活動を奨励するとともに、学術、芸術、社会活動及び文化活動などの分野において学生の範となる活躍をし、横浜市立大学の名誉を高め、学内の士気を高揚したものに対して贈られます。布施学長、宇南山後援会会长、岡田副学長、五嶋副学長らが参加のもと表彰式が実施され、布施勉学長から表彰状、宇南山後援会会长より副賞が授与されました。



平成20年の学長賞は、第60回学生広告論文電通賞 第1部大学生個人・論文部門で第3位を獲得した小栗隆史さん（国際総合科学部 国際文化創造コース）。学長奨励賞個人は第17回国際タンパク質科学構造解析会議において「成長ホルモン遺伝子組み換えサケのプロテオーム解析」というテーマでポスター発表しポスター賞を受賞した倉田洋一さん、第88回日本化学会春季年会において「経路積分法を用いた水クラスターイオンの温度依存症と同位体効果の解析」を口頭発表し学生講演賞を受賞した鈴木机倫さん、第81回日本組織培養学会において奨励賞を受賞した相原祐子さん、神奈川県ものづくり技術交流会においてポスター賞を受賞した北田典央さん、第20回日本テコンドー選手権一部軽量級で優勝した川口竜さんら5名。団体ではまちのガイドブック「あん・あん・マップ」「黄金町読本」を作成した鈴木都市デザインゼミ、第20回東京学生映画祭における特別イベント「ショート・ショート・ショート」でグランプリを受賞したくるくるメガネの2団体。

6月20日

後援会総会が開催されました

毎年6月に開催される総会は、一昨年より土曜日に開催されることとなり、会場のカメリアホール（350席）には多数の保護者会員のほか年度会員となられた卒業生会員の皆様が参加されました。平成20年度決算報告及び21年度事業計画・予算説明について活発な質疑応答がなされました。後援会議案承認後も、会員からは大学の現状について、就職内定取り消し問題への対応や、八景駅からの通学路の危険性、授業選択についてなど多くの質問がなされ、後援会顧問としてご出席の本多理事長、布施学長がご回答くださいました。後援会総会が、保護者の方々が大学へ対する疑問、質問を呈することのできる有意義な機会提供の場となつたことは後援会活動の一つの成果になりました。

また、後援会事業に対する質問として予算を大幅に下回る事業の原因が問われ、学生への周知が不十分であることなど今後の課題が見えてきましたので早速その対応として、有意義な資格取得者に対する受験料補助事業を充実することとし、大学のキャリア支援室より全学生に向けてメールでお知らせいたしました。しかし、申請者の状況からするとせっかく発信したメールを見て来るのではなく、友達からの噂でとりあえず聞きにくる学生さんが多いとのことです。如何にキャッチしてもらうかが新たな問題として浮かび上がってきてています。また、教育設備準備金特別会計について、在学中に補助を受けられない等のご意見については、平成17年度に実施されたグランド設備に対する補助により在学生の方々も恩恵を受けているので長期的な視点で助成を見ていただきたいと藤野常務理事より回答がなされました。



総会（八景キャンパスカメリアホール）

平成20年度決算 <H20.04.01～H21.03.31>

【一般会計】収支計算書

（単位:円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
会費収入（保護者会員）	43,900,000	43,900,000	0
（年会員）	3,000,000	3,794,190	794,190
受 取 利 息 収 入		48,352	48,352
雑 収 入	1,200,000	244,000	△956,000
当 期 収 入 合 計	48,100,000	47,986,542	△113,458
前 期 繰 越 収 支 差 額	29,892,141	29,841,616	△50,525
収 入 合 計	77,992,141	77,828,158	△163,983
【支出の部】			
学 生 活 動 助 成 費	19,670,000	16,346,294	△3,323,706
学 習 助 成 費	3,500,000	1,794,377	△1,705,623
就 職 活 動 支 援 費	2,500,000	2,480,810	△19,190
資 格 取 得 支 援 費	1,000,000	377,595	△622,405
海 外 研 修 支 援 費	4,000,000	1,862,615	△2,137,385
特 別 講 義 助 成 費	200,000	101,365	△98,635
研 究 調 査 助 成 費	2,700,000	1,443,570	△1,256,430
卒 業 生 送 別 会 費	1,800,000	1,584,130	△215,870
入 学 式 保 護 者 懇 談 会 費	800,000	652,550	△147,450
福 利 費	1,000,000	376,265	△623,735
会 議 費	800,000	604,080	△195,920
通 信 費	1,500,000	1,386,115	△113,885
広 報 誌 等 印 刷 費	1,300,000	1,025,232	△274,768
事 務 局 費	1,680,000	1,388,955	△291,045
繰 り 出 し 金	7,000,000	7,000,000	0
予 備 費	650,000	0	△650,000
当 期 支 出 合 計	50,100,000	38,423,953	△11,676,047
当 期 収 支 差 額	△2,000,000	9,562,589	11,562,589
次 期 繰 越 収 支 差 額	27,892,141	39,404,205	11,512,064

監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条(6)の規定により、平成20年度事業報告並びに決算書類を監査した。その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成21年5月25日

監事:大村守一・小谷利子

【一般会計】貸借対照表

（単位:円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【資産の部】			
流 動 資 産			
現 金 預 金	39,404,205		
流 動 資 産 合 計		39,404,250	
資 産 合 計			39,404,205
【負債の部】			
流 動 負 債			
【正味財産の部】			
正 味 財 産			39,404,205
(うち当期正味財産増加額)			(9,562,589)
負債及び正味財産合計			39,404,205

【教育設備整備資金特別会計】収支計算書

（単位:円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	45,000	64,857	19,857
線 入 金 収 入	7,000,000	7,000,000	0
当 期 収 入 合 計	7,045,000	7,064,857	19,857
前 期 繰 越 収 支 差 額	23,135,929	23,135,929	0
収 入 合 計	30,180,929	30,200,786	19,857
【支出の部】			
当 期 支 出 合 計	0	0	0
当 期 収 支 差 額	7,045,000	7,064,857	19,857
次 期 繰 越 収 支 差 額	30,180,929	30,200,786	19,857

【教育設備整備資金特別会計】貸借対照表

（単位:円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【資産の部】			
流 動 資 産			
現 金 預 金	30,200,786		
流 動 資 産 合 計		30,200,786	
資 産 合 計			30,200,786
【正味財産の部】			
正 味 財 産			30,200,786
(うち当期正味財産増加額)			(7,064,857)
負債及び正味財産合計			30,200,786

公立大学法人横浜市立大学後援会会則

(名 称)

第1条 本会は公立大学法人横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 国際交流事業に対する支援
- (4) 学術に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者
- (2) 横浜市立大学の教職員及び退職者並びに卒業生で本会の事業を支援する者
- (3) 本会の事業を賛助する者

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理事 30名以内
- (6) 監事 2名以内
- (7) 顧問 若干名

(役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、監事は会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3. 顧問は会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記を置く。

2. 書記は、理事会の議を得て会長が委嘱する。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に關し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めたとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会 計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費は、次のとおりとする。なお、既納の会費は返還しない。

(1) 保護者

学部学生の保護者、50,000円(但し医学部1年次生の保護者については15,000円)
国際総合科学研究科学生の保護者、大学院博士前期課程および博士後期課程においては30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあっては20,000円とする)

(2) 教職員・退職者及び卒業生、年会費3,000円以上

(3) 賛助会員、年会費5,000円以上

2. 会員のうち前項1号の者は、学生の入学時に会費を納めるものとし、2号及び3号の者は毎年、年度内に納めるものとする。

3. 教職員、退職者及び卒業生の会員並びに賛助会員が、前項の定める会費を年度内に納めない時は、その資格を失う。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

事務局より

このたびNews Letter 2009の発行にあたり、会員の皆様に横浜市立大学の様子、在学生の学生生活の様子をお伝えする有意義な広報誌を目指し、紙面の充実を図りました。

会員の皆さんにおかれましては、後援会の多方面にわたる支援事業を通して、後援会の活動をご理解いただき今後とも後援会活動にご協力いただきたくお願い申し上げます。また、ご卒業生、教職員、旧教職員の方々におかれましては、年会員として引き続き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

公立大学法人横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027横浜市金沢区瀬戸22-2横浜市立大学内
TEL:045(787)2396 e-mail:kouenkai@yokohama-cu.ac.jp